

(1) 繊維

19 / 18 20 / 19 伸び率10%以上 ● 伸び率0 ~ 10%
: 天気図マーク; 伸び率0 ~ 10% 伸び率 10%以下

1 . 企業経営動向

(1)需要

- ・ 繊維の国内需要については、天候不順などの影響も重なり、衣料品分野において季節衣料が伸び悩んだことから全体として減少傾向にある。(出典：商業販売統計)
- ・ 19年度の輸出は、化学繊維等の伸びにより対前年度比で微増。(出典：貿易統計)

(2)生産・設備稼働

- ・ 平成19年の繊維工業全体の生産、出荷は、引き続き前年比マイナスが続いている。
- ・ 生産、出荷の減少は、原料高の影響に加え、暖冬、梅雨明けの遅れや残暑などの天候不順による国内需要の低迷が主な要因となっている。
- ・ また、在庫についても引き続き前年比マイナスとなっている。今後も生産調整を行うことで、減少傾向が続くものと見込まれる。
(出典：繊維・生活用品統計年報)

(3)企業収益

- ・ 大手合繊各社の決算状況は、原燃料価格等の高騰によるコストアップで苦戦するも、炭素繊維やアラミド繊維等の高機能繊維の需要が堅調で売上高が増加。
- ・ 大手紡績各社の決算状況は、原燃料コスト増、衣料品消費の伸び悩み等で厳しい環境にあるものの、非繊維事業の収益拡大により、増収増益を確保した社もある。
- ・ 大手アパレル企業の決算状況は、天候不順の影響で秋冬衣料が伸び悩んだが、一部ブランドの堅調や新ブランドの拡販等により売り上げ増の社もみられる。

(4)財務

- ・ 大半の企業において財務体質の強化を引き続き進めており、有利子負債の削減、不採算事業からの撤退などのコスト削減・生産効率の向上を目指した取り組みを行っている。

2 . 設備投資動向 (グラフ 1 参照)

(1)これまでの設備投資の推移

- ・ 繊維業界全体では、設備投資の実績は平成4年度以降減少または横ばい傾向が継続していたが、18年度実績額は、376.9億円(17-18共通回答企29社)と対前年度比+4.7%と増加基調であり、4年度連続で対前年度比でプラスを示している。
- ・ また、19年度実績見込み額は、460.2億円(18-19共通回答企業32社)、同20.9%増加の見込み。

(2)平成20年度の設備投資計画

- ・ 20年度の設備投資計画額は、全体としては528.1億円（19-20共通回答企業32社）同 + 14.7%と増加の見込み。
- ・ また、業種別に見ると、紡績は前年度比+193.0%、染色整理は同+59.1%、化学繊維製造業は同 + 13.3%、衣服等は同 50.5%と業種別に増減が分かれている
- ・ 目的別投資内訳を概観すると、20年度計画においても、全体的に、更新、維持・補修及び生産能力増強の割合が高い。
- ・ また、業種別に目的別投資内訳を見ると、更新、維持・補修、生産力増強に対する投資が多くを占めているが、染色整理においては、最も割合を多く占めるのは環境関連で、繊維業以外業種も含め環境関連投資割合が最も高い。

3．長期資金調達・運用動向

(1)長期資金運用動向

- ・ 平成20年度（計画値）は前年度（見込み値）に比べ（19-20共通回答企業19社ベース）では、設備投資所要資金については、33.6%の増加となっている。

(2)長期資金調達動向

- ・ 一方、資金調達方法については、20年度計画においても、基本的に内部調達資金の範囲内で設備投資をする傾向が続いているものの、借入などが若干増える計画。

（グラフ1：設備投資の前年度比の推移）

